

～『志』・季・折・々～

市内の美しい風景や、歴史・文化を感じさせてくれるもの等を写真でご紹介します。読者の皆様からの写真のご提供も、お待ちしております。

【今月の1枚：鬼火焚き（泰野地区）】

短歌（松山南船短歌会）

風邪も癒え襟足あらはに髪を切り琴の音色に秋風そよぐ
 熱帯夜明けの光におどろかむ菩提樹に咲くはじめての華
 何ごともきつちりせねば済まぬ夫病室にありても家にいるごと
 喉渇き心渇きて眞夏日のメロンの甘さわが舌を刺す
 童らも遊びつかれし夕暮れや狂い咲きたるさくら二輪の
 猛暑過ぎ迎えし秋は台風のラッシュに怯ゆる日々の始まり
 夏すぎてそよ吹く風のこちよく赤く咲きたる百日紅ゆらす
 銅像の修正あるかと向かう街富山に生きの夫が居たり
 散歩路のすすき穂かすかに目に入りて触れば柔らかな穂の膨らみよ
 台風でなぎ倒されし庭花木生きかえってねと支柱を立てる

畑 美佐子
 前原 恭
 野口 順子
 石橋 道子
 川添八重子
 中島 昭
 吉元ミチ子
 大迫 鈴子
 藤田ミチ子
 山口 カツ

せつま狂句（有明町せつま狂句同好会）

兼題 「大霜」 大霜朝せ 生徒ま素足で 頑張らせつ 丸目 南兵衛
 （評）戦前の小・中学校の朝礼は全て裸足だった。若干の身動きも出来ず、教室に戻って仲間と足を温め合った記憶が脳裏に残る。そして蓄えたその気力・体力が今を生きる糧だとは感涙。
 試合題 「酉」 鳥の如っ 飛へち酉年し 幸運を願っ 小蓬原 忠則
 （評）申年が明けて丁酉を迎えた。年頭にこの一年の幸運を願うことはみんな同じ。若し人間が鳥のように大空を自由に飛翔できたら、それこそ強大な幸運を招く。誇張が効いた。

兼題 「乗っ」 歳しゆ取れば 乗いかなつとは 電動カー 稀付 通夫
 （評）最近高齢者の運転事故の話題が広がり、実際に色々な施策が進んでいる。この主人公もその一人。高齢になつて誰からもお咎めなく、悠々と乗れるのは電動車だけという中7の滑稽さ。
 兼題 「参詣」 参詣の 痛て膝頭に 老齢しゆば知つ 平田 光夫
 （評）初詣に続いて年間神社・仏閣等を参詣する機会が多くなった。しかしこの神社等は概ね階段が待ち受けて、その度に膝頭が痛む。いよいよ高齢期突入ということか？祈安全歩行。

兼題 「乗っ」 乗い換えつ 逆き行つ 電車しえ 狼狽ろつ 畑山 敏昭
 （評）まさかそんな経験はないでしょう。ところが、ある日ある時、支線から乗り換えた車で、なんと反対方向へ走り出した。思考不足、騒然たる胸中は察するに余りあり。着地点は何処へ。

三行詩（楽しい子育て全国キャンペーン 厚生労働大臣賞受賞作品）

「早くちこくするじゃん」って言うけど、
 「おいて行くからね。」って言うけど
 ぜったい、まってる、ぼくのいちゃん

有明小学校2年 黒 拓真

文芸

Japanese Poem of 31 syllables
 *Haiku Poem*Comic Haiku*

俳句（ぎんなん俳句会）

鬼火焚き尽きて静寂の生まれけり
 石段を二段飛びして初詣
 笑ひ顔似たる親子や雪たるま
 冬茜雲の翼を染めあげて
 ドア越に差し入れさるる流行風邪
 読経する声をしづかに冬の朝
 年酒酌む母の健在有り難し
 禅寺や耐へて紅差す寒椿
 晦日蕎麦土間のにぎはひ香りけり
 冬薔薇風を粗砥に棘を研ぐ

川上 豊
 北野 治美
 吉村 万里
 北川 雨水
 刀坂由美子
 堂園 悦子
 今井 洋子
 福留まり子
 熊谷 啓子
 和田 洋文